

佐井港～仏ヶ浦

奇岩怪岩景勝地探訪。
陸からの眺めとは全く違い、まるで異世界に迷いこんだような感覚に捉われる、佐井港から仏ヶ浦までの船旅をご案内致します。

鶴ノ鳥岩

漁を待たぬ鳥の鳥がこの岩の上に集まります。
風に向かって羽根を広げる様は羽根を乾かす為なのか、求愛のポーズなのか?とも滑稽に見えます。

仏ヶ浦

風が強い津軽海峡の乱波が削り上げた大自然の造形、仏ヶ浦は冬の寂しいと夏の穏やかな姿の両方を持っています。2kmに及び奇岩の連なりは、見るものの心にさまざまな造形を結んでくれます。

がんかけ岩

見方によっては、男女が抱き合っているような姿の大岩石。地元では、古くからこの岩を「がんかけ岩」とか「願掛け岩」と呼ばれ信仰の対象となっていました。
また、江戸時代の紀行文家菅江真澄の文章にも見られ、自分が好きな女に想いが通じるようにと願を掛けられている風習があることを伝えています。

大漁島(オヨ島)

この辺の海域でも特に潮の流れが強いところで、オヨ島の隅にも満ち干潮で見え隠れする岩礁が2か所ほどあります。
昔、遭難や座礁が多かった為に灯台を付け安全航行に役立てておられます。鯛、ブリ、ソイ、アイナメがよく釣れます。

大町桂月歌碑

土佐の歌人、大町桂月は仏ヶ浦の奇岩の連なりと神秘的な美しさに、この歌を書きました。
「神のわざのつづり仏ヶ浦人の世ならぬ地なりけり」

五百羅漢

草み汚れた衣を着た修行僧が海岸に立ち並び黙想に耽る様子。

屏風岩

すぐ脇にある地蔵堂を強い風から守る岩に降伏したとも言われる。

如来の首

仏ヶ浦のほぼ中央で如来様が海を向き、浜に上がる人達を懐しい顔で出迎えているように見える。

一ツ仏

一ツ仏の手前、蓬萊山と鳳鳴山の間には不老長寿の水が流れる極楽浜があります。
源九郎義村と弁慶が落ちのびて来たとき、義村は極楽浜の中へかくれ弁慶が身をもって穴をふさぎ敵を追い退した。
その時の産刀で仏の跡が一つ仏の首の断像だといふ伝説も残されています。

佐井港

江戸時代、盛岡藩の船定港であった下北半島の各港は田名部通り七港と総称されていました。
その中には佐井港もありヒバ材や海産物を積み出す舟船とその乗組員、商人たちの往来で賑わい、大いに栄えました。

壁面

全国的美術に携わる大学生が夏休みを利用して書いてくれます。「海」をテーマにそれぞれの思いを体中ペンキだらけになって仕上げています。



◆蓬萊山と鳳鳴山



アルサス

観光船の発着場所であり、観光土産と歴史を紹介しています。
観光案内所や博物館、3階には津軽海峡と北海道を繋げる展望室があります。